



Dai I NAIKA News

三重大学病院 令和 6 年 7 月 10 日
循環器内科、腎臓内科
季刊紙【第 28 号】

発行/三重大学大学院医学系研究科
循環器・腎臓内科学
〒514-8507 津市江戸橋 2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

就 任 挨 拶



循環器内科
准教授 栗田 泰郎

この度、三重大学医学部附属病院循環器内科准教授に就任いたしました栗田泰郎でございます。まずは、日頃よりご支援ご指導を賜っております皆様へ心より感謝申し上げます。

簡単ではありますが、私の経歴を紹介させていただきます。1999 年に三重大学医学部を卒業後、茅ヶ崎徳洲会病院（現、藤沢徳洲会病院）にて研修を行い、第一内科に入局しました。その後、三重大学、松阪中央総合病院、尾鷲総合病院、山田赤十字病院にて研鑽を積みました。また、中野赳先生、大西勝也先生のご指導のもと、心不全の臨床研究を行い、学位を取得しました。その後、愛知県の豊橋ハートセンターにて心臓カテーテル治療に関して 3 年間研鑽を積み、三重県に戻り、現在は土肥薫教授のもと、副科長および心臓カテーテル検査室の責任者として診療に従事しております。

この 10 年間は循環器診療において大きな変革の時期でした。TAVI（カテーテルによる大動脈弁置換術）、PFO 閉鎖術、Mitraclip（僧帽弁クリップ術）、左心耳閉鎖術など、構造的な疾患の治療が次々と導入されました。また、新しい左心補助装置である Impella の導入も行われました。新しい治療の導入が、循環器内科の素晴らしいメンバーの尽力により、他の地域と大きなタイムラグなく三重県の患者様に提供で

きたと考えております。次の目標としては、destination としての埋め込み型人工心臓の導入を目指しておりますが、今後の 10 年がどのような変化を迎えるかは未知数です。安全かつ確実な診療を心がけ、地域医療に貢献して参ります。

研究面においては、冠動脈疾患や心筋梗塞に関する研究に注力しております。三重県で行われている三重 ACS registry のデータを用いた統計解析、カテーテル検査による微小循環障害の研究、CT や MRI を用いた画像解析などをさらに発展させていきたいと考えております。

教育面では、未来の医療を担う若手医師の育成に力を入れて参ります。特に心臓カテーテル治療においては複雑かつ高度な知識と技術が求められます。有能で意欲的な後輩が多くおり、彼らとともに日々の診療や研究に邁進することが一番の教育と考えております。また、循環器内科の専門知識だけでなく、患者様とのコミュニケーションやチーム医療の重要性を理解する医師を育てることが私の使命と感じております。多くの学生や研修医が三重大学病院で充実した学びを得られるよう、全力でサポートして参ります。

私が循環器内科の道を歩み始めて以来、数多くの患者様と向き合い、様々な疾患に取り組んで参りました。その中で得た経験と知識を基に、今後も地域医療の発展に貢献し、患者様の健康と福祉の向上に尽力して参る所存です。

最後に、患者様をはじめ、関係者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

就 任 挨 拶



循環器・腎臓内科学
准教授 藤本 直紀

この度、令和 6 年 2 月 1 日付で三重大学大学院循環器・腎臓内科学 准教授を拝命いたしました平成 11 年卒の藤本直紀と申します。謹んでご挨拶申し上げます。歴代の循環器・腎臓内科学（第一内科）の准教授（助教授）として、研修医時代にご指導いただいた井阪直樹先生をはじめ、山田典一先生、藤井英太郎先生、現教授である土肥薫先生など、錚々たる先生が

務められてこられました。以前と比較すると専門化・細分化・分業化が進んだ現在の医療においてこそ、歴代の准教授が創り上げられてきた“全身を診る”ことに重点を置く第一内科の伝統を継承し、チーム医療の推進に力を入れていきたいと考えております。同門の先生方におかれましては、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床・研究につきましては、慢性心不全患者のセルフケアマ

ネジメントツールとして産学共同で専用アプリ（名称：ハートサイン）の開発に取り組んできました。現在、令和 5 年度に土肥教授が獲得されたAMED事業（予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業）の一環として、第一内科の関連病院（17 施設）の医師・メディカルスタッフと共に、心不全管理アプリ“ハートサイン”の有効性を Stage C 心不全患者を対象に、前向き介入試験を実施しております。今後、ACS 患者を対象として、運動指導機能付きハートサインの効果の検討も予定しております。平成 30 年に施行された臨床研究法により、介入研究の実施に対するハードルは高くなっておりますが、心不全患者において前向き介入試験（心不全治療薬の左室構造や機能に与える影響の検討）を適切に実施することができ、近々、御報告させていただける状態になっております。このように、臨床・研究の両面から、三重県の循環器・腎臓内科部門のますますの発展に尽力させていただきたいと考えています。

先生方におかれましては、日頃から多大なるご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。今後ともご指導賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

New Face

新任医師紹介



循環器内科



助教 北野 哲司

2013年に産業医科大学を卒業しました、北野哲司といいます。出身は三重県熊野市であり、三重県の医療に携わりたいと思い、2024年4月から三重大学循環器・腎臓内科に入局させていただきました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



医員 小林 壮一郎

平成30年卒の小林壮一郎と申します。卒業後伊勢赤十字病院で勤務し、令和6年4月より三重大学医学部附属病院勤務となりました。大学病院では肺循環疾患を中心に循環器疾患全般の診療を行っていく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医員 貝沼 大輝

令和2年卒の貝沼大輝です。2年間永井病院循環器内科で研鑽を積み、今年度よりお世話になります。患者様に寄り添い、少しでも安心してもらえるような診療をできるよう全力で頑張ります。よろしくお願い致します。



医員 樂家 僚亮

2020年三重大学医学部卒業し、三重県立総合医療センターでの勤務を経て、2024年4月より三重大学病院に勤務となりました。より良い医療が提供できるよう、日々、研鑽を積んでいきたい所存です。何卒、よろしくお願い致します。



医員 原田 慎一

静岡市出身、三重大学を2015年卒業し、5年間鈴鹿中央総合病院で研修しました。大阪の桜橋渡辺病院で4年間アブレーションと植込みデバイスを修練し、不整脈グループの一員として三重大学へ戻って参りました。何卒、よろしくお願い致します。



医員 森 洋樹

尾鷲総合病院から赴任しました医師7年目の森洋樹と申します。三重大学病院では後期研修の際にも勤務をさせて頂いておりました。今回は大学院生として臨床はもちろんのこと、心不全管理アプリを用いた臨床研究にも携わらせて頂きます。至らぬ点ばかり思いますが、何卒よろしくお願い致します。



医員 多田 智子

令和2年卒の多田智子と申します。卒業後4年間を伊勢赤十字病院で過ごし、令和6年4月より三重大学医学部附属病院で勤務させていただいております。市中病院では経験できなかった疾患や診断方法、治療法に触れ、驚きと発見の毎日です。少しでも成長できるよう努力してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



腎臓内科



医員 秋山 言宇

三重県四日市市生まれ、四日市高校を経て、三重大学医学部を卒業しました。患者さん一人ひとりに寄り添った医療が提供できるように精進してまいります。



医員 森 睦貴

平成30年卒の森睦貴と申します。令和6年4月から三重大学医学部附属病院にて勤務させていただいております。少しでも皆さまのお力になれるよう、微力ながら尽力いたします。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

🌸 第一内科ホームページをリニューアルしました 🌸

<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>



ワンポイントレクチャー ～Fanconi 症候群について～



腎臓内科
助教 小田 圭子

Fanconi 症候群は、近位尿細管の障害により、本来近位尿細管で再吸収される物質が尿中への過度の喪失をきたす症候群です。アミノ酸やブドウ糖、重炭酸、無機リンなどの溶質再吸収が障害されその結果として代謝性アシドーシス、電解質異常、脱水、発達障害、くる病などを呈します。

原因は多岐にわたりますが、後天性のものでは薬剤性が多く、最近では小林製薬の紅麹コレステヘルプ®により Fanconi 症候群を来す可能性が日本腎臓学会から報告されています。腎機能障害や検尿異常は自覚症状に乏しいこともあり、健診で見つかることも多く、開業医の先生方を受診されることもあるかと存じます。血糖が高くないにも関わらず尿糖が陽性である場合は腎性尿糖である可能性が高く、Fanconi 症候群を見つける契機にもなります。ぜひ腎臓内科へご紹介頂ければと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1. FAX 新患予約

「診療予約申込書」「診療情報提供書」を FAX：059-231-5541 へお送りください。

※「診療予約申込書」は三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可です。



診療予約申込書をFAX →

← 診療予約票をFAX

三重大学病院 総合サポートセンター
※医療機関の方専用

FAX 059-231-5541
TEL 059-231-5552



2. 緊急受診、ご相談等

循環器、腎臓内科救急ホットラインへお電話下さい。病棟医長が直接対応させていただきます。

循環器内科		腎臓内科		外来担当医表		
		月	火	水	木	金
循 環 器	初診	土肥 薫 伊藤正明 栗田泰郎	藤本直紀 原田慎一	岡本隆二 香川芳彦	杉浦英美喜 北野哲司 腫瘍循環器外来	荻原義人 市川瑞貴 腫瘍循環器外来
		伊藤正明 栗田泰郎 森脇啓至 岡本隆二 大森 拓 高崎亮宏 藤本直紀 石山将希 A° -スケーター外来	荻原義人 土肥 薫 中森史朗 原田慎一	岡本隆二 香川芳彦	杉浦英美喜 北野哲司 山下大輝 桐井陽祐 腫瘍循環器外来	荻原義人 中森史朗 佐藤 徹 香川芳彦
	再診					
腎 臓	初診	齋木良介	村田智博	小田圭子	片山 鑑	鈴木康夫
	再診	片山 鑑	鈴木康夫	齋木良介	休 診	村田智博

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来：059-231-5146
病 棟：059-231-5101
F A X：059-231-5518
研 究 棟：059-231-5015



患者様の紹介、相談にご活用ください。
季刊誌に関するご意見、ご質問は
下記メールアドレス、または当科 HP まで。
naika1@med.mie-u.ac.jp

心不全管理アプリ“ハートサイン”のご案内

・ハートサインとは

日々の体重や血圧、症状などを記録する心不全管理のためのアプリです。
従来の心不全手帳と異なり、「アラート」機能が搭載されています。



・アラートとは

入力された生体情報、症状を元に心不全増悪のアラートを出し、早期受診を促します。



ホワイト：状態安定

イエロー：数日以内の受診

レッド：可能な限り早く受診

- ・「アラート」により患者様が受診された際は心不全増悪を念頭に**通常通りの診療**をお願いします。必要に応じて高次医療機関への紹介をご検討ください。
- ・大学病院と県下の関連病院で臨床研究（ハートサイン vs. 心不全手帳）を進めております。



ハートサイン事務局（平日9時～16時）
TEL：059 - 232 - 1111（代）
ハートサインHP：https://heart-sign.jp

連絡先
三重大学医学部大学院 循環器腎臓内科学
森洋樹